

PAシステムとSRシステムの違い



音響システムのガイドブックやマニュアルで「PAシステム」という用語は良く出てきますが、「SRシステム」というのもお聞きになった事があると思います。しかし聞いた記憶はあるがそれって何の事?という方も多いのではないかと思います。改めて確認してみます。使われる用語でイメージされる音響設備を区別してもらうことができれば良いのではと思います。

【当社納入事例】



2002/ 3/19

PAとは Public Address の頭文字をとったもので「ピーエー」と呼ばれています。これは公共に伝達するとか、公衆に伝える、聞かせる、という意味になり、古くは「拡声器」と呼ばれていました。音楽を聴くための「オーディオ」とは違い、主にメッセージ、アナウンスを多くの人に伝えるイメージが強いものです。駅の案内放送、学校の放送、町内放送など、トランペット形スピーカーを使うものが拡声器の原点にあります。次に喫茶店やレスト

ランなど「BGM(バックグラウンドミュージック)」と呼ばれる音楽を多くに人に聞かせるもの、あるいはそこに駐車場の案内などのアナウンスもミックスされるものなどがあり、発展してカラオケのようなものは Public Address と区別され、「業務用音響機器」とか建物に設置される音響装置という意味から、規模的に大きい物は「固定設備用音響システム」とか呼ばれるようです。この「固定設備用音響システム」は「電設物件」に含まれる音響設備のことになります。カラオケ装置からイメージされる音響設備として、ロックサウンドなどのコンサート用システムがあります。「ステージサウンドシステム」とか「舞台音響設備」とか「プロオーディオシステム」などと言われます。同じく客席が多くあり、ステージから大音量を出すシステムとしては映画館の設備があり、「シアターシステム」とか呼ばれます。先の「Public Address」「ピーエー」とは違い、大音量の音楽を放送する装置をイメージできます。また、駅の案内放送、学校の放送、町内放送など「ピーエー」ではアナウンスをしている人の顔が見えず(ホームでは見えることもありますが)、マイクロホン(マイク)はスピーカーと違う場所にあります。これとは反対に舞台音響やステージサウンドシステムでは歌っている人、マイクを使っている人の顔が見えます。言い換えれば、マイクとスピーカーが同じ場所にあります。このようなシステムは「Sound Reinforcement (サウンド・リインフォースメント)」として区別され、「SRシステム」や「プロオーディオ」と呼ばれています。

マイクを中心に連絡設備や広報活動に使われるものが「PA」で、音楽要素が強く舞台運営的なものが「SR」「プロオーディオ」と考えて頂ければ良いのではないのでしょうか。